

「夫婦のきずなを強めるために」

著者：ウェイン・A・マック

- ・ 対象：結婚している夫婦。結婚を考えているカップル
- ・ 方法：結婚カウンセリング、結婚前カウンセリングとして。グループで学ぶことも。
- ・ 回数：各章を1回ずつで、計7回
(各章に詳細な質問が用意されているので、それを用いて)

1. この本を読むにあたって

著者：ウェイン・A・マック

マスター大学、聖書カウンセリング学部学部長。フィラデルフィア神学校修士課程、ウェストミンスター神学校博士課程修了。著書として『あなたの家族』、『神の道；聖書的な人生へのガイド』、『個人と対人関係における諸問題』、『家族と結婚生活における諸問題』、そしてデビッド・スワヴィーとの共著『神の内にある人生』等がある。

出版社：ホームスクーリング・ビジョン

出版年：2006年

本の要点：

神を敬う良い結婚生活というものは、なんの努力もなしに手に入れられるというものではありません。夫と妻が共に結婚に身を捧げ、たゆみなく祈り続け、常に努力し続ける結果生じる賜物です。人生でもっとも重要な人間関係のために努力することは、決してやさしいことではありません。時間とエネルギーを費やし、真剣に向き合わなければならず、痛みを伴うかもしれませんが、自己診断を行い正直に自分を評価しなければなりません。しかし祈りをもってそのような努力を行う時に、必ず豊かな報いが与えられます。

多くの夫婦が、数々のチャレンジに直面しています。深いきずなで結ばれた夫婦関係を、実現不可能な理想と片付ける必要はありません。著者は夫婦の困難を理解し、如何に成功を勝ち取るかを明らかにしています。夫婦それぞれの役割と姿勢、コミュニケーションの方法、お金の使い方、性生活、子育て、そして家族の信仰等に関する聖書からの洞察と実践の方法

を大変分かりやすく、紹介しています。

教会において結婚カウンセリングの助けとして、またこれから結婚を考える若い世代に結婚への備えに導くためにも、多くの夫婦が必要としている領域で、真の希望とサポートを第一線で活躍するカウンセリングの教授が提供しています。

本の内容：

著者は牧師としての経験、またカウンセラーとしての経験から、「多くの結婚生活が聖書的基準からはるかにかけ離れています。そのような結婚生活を送っているなら、神が結婚に計画している充足感と喜びを味わうことはできないのです」と記しています。本書は夫婦が真にひとつとなることを願って書かれたもので、聖書的な基準、原則をもとに自主的に学習できるように、各章ごとに『話し合いと学びのために』という項目を設け、読者ひとりひとりが実践的かつ個人的な学びを深めることができるように配慮されています。

第1章 「神が定めた結婚の目的」

創世記2：18～25に記されている結婚に関する「神の青写真」について学ぶ。その中で「離れ、しっかりと結ばれ、そして一体となる」という概念を提示し、説明します。

第2章 「妻の役割」

妻が夫を完成させるべき立場にあること、妻は夫をしっかりとほめてあげなければならないということを、聖書の御言葉からていねいに説明します。

第3章 「夫の役割」

どうすれば、夫が妻を完成させることができるのかについて記しています。夫婦としての一体感は夫が聖書に定められた役割を正しく知り、果たしていく時にのみ成就します。仕える指導者としての夫の役割について、詳しく説明しています。

第4章 「コミュニケーション」

夫婦のきずなを深め、一体感を得るためには、「心を開いて話す」事が必要不可欠です。そのために必要な事、注意すべき事を具体的、実践的に紹介しています。

第5章 「経済的な一致」

夫婦が深いレベルで一致できない理由のひとつに、お金に対する異なる価値観があります。経済に関する聖書的原則をしるし、具体的な

行動計画も盛り込まれています。

第6章 「性的一致」

性的不一致となる原因は何か。夫婦の性的関係に関して、聖書は何と言っているのか。教会でなかなか語られることが少ない問題をも、ていねいに取り扱っています。夫婦の間で性的一致をはぐくんでいくための実践的アドバイスをも紹介しています。

第7章 「子育て」

子どもは、夫婦を引き付ける磁石のような力もあり、夫婦を引き離すくさびのような役目もします。夫婦の一致の鍵を握るもう一つのテーマである「子育て」も御言葉を持って、ていねいに取り扱っています。34にわたる具体的な「How To」を章末に記しています。

(第8章 「家族のキリストへの信仰」)

2. 確認コーナー

※本書には、各章に大変詳細な質問が用意されていますので、そちらを用いられることをお勧めします。その「話し合いと学びのために」という項目を用いて、グループでの分かち合い、教会における夫婦カウンセリングなど、有効的に学び、また実践を励ますことができるでしょう。